

# HSK



# いちばんぼし

HSK通巻 333 号

昭和 48 年 1 月 13 日第 3 種郵便物認可

平成 11 年 12 月 10 日発行 (毎月 10 日)

全国膠原病友の会北海道支部

いちばんぼし No.119

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆ もくじ ☆ ☆ ◇ 日本一周激励マラソン \_\_\_\_\_ P1~ 6

☆☆ 1999.12.10 ☆ ☆

☆☆ ☆ ☆ ◇ 事務局からのお知らせ \_\_\_\_\_ P7

☆☆ 支部だより ☆ ☆

☆☆ ☆ ☆

☆☆ ☆ ☆

☆☆ ☆ ☆ ◇ あとがき

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

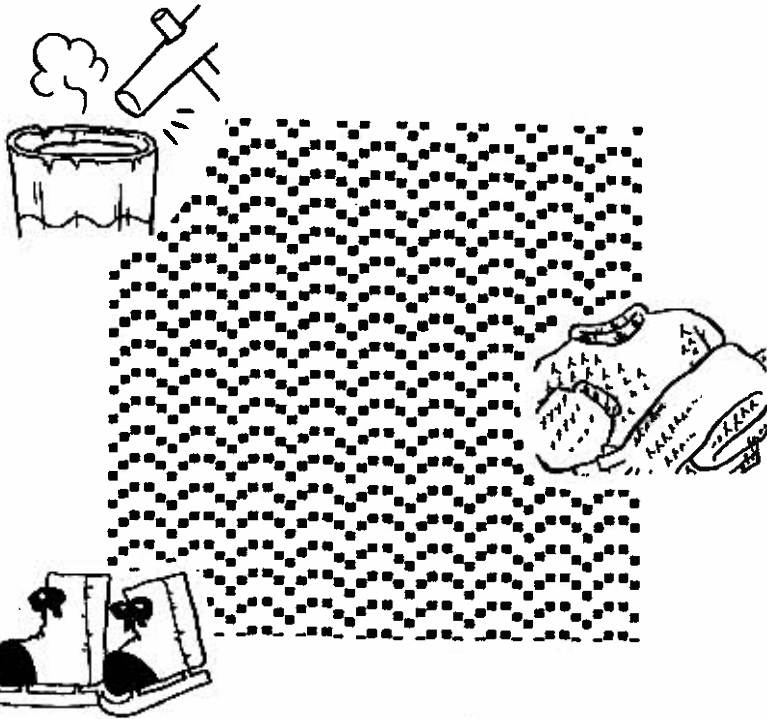
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



## 日本一周無事走破！



### 難病患者への支援、訴え続けた128日、6200KM

澤本和雄さん（札幌在住のグラフィックデザイナー、53歳）とそのサポート隊が「がんばれ難病患者 日本一周激励マラソン」と銘打ち、雨の宗谷岬を出発したのが7月25日。一日40～70kのペースで47都道府県をまわり、11月29日道庁赤レンガ前で、無事最終ゴールのテープを切りました。「おかえりなさい」「完走ありがとう」と大きく書かれた横断幕。感激の涙と笑顔で小旗を降りながら迎えた、150人あまりの仲間たち。すでに夕方の5時をまわり、あたりは真っ暗。気温はマイナス2度。でもそこだけが明るく暖かい、不思議な幻想的な空間に見えました。こんなすごいことをやり遂げたのに、4人の男たちは勝ち誇ったような表情もなく、淡々とした、あのいつものさわやかな笑顔！ 灼熱の本州の夏、雨の日も台風の日もありました。そして、ゴールの札幌は雪。スタッフの一人が風邪をひいたこともありました。ちいさな怪我やトラブルはあったかも知れませんが、でもこの128日間の長丁場、無事故、無事で元気に4人が帰ってきたのです。「無事これ名馬」という言葉を思い起こしました。澤本さんは馬というよりは「カモシカ」。本当にカモシカのような美しい脚でした。

スタッフの伊藤事務局長、佐藤さん、阿部さん、お疲れ様でした。そしてこのマラソンを陰で支えて下さった多くの方々、ありがとうございました。

膠原病友の会の皆さんには、このマラソンの趣旨を十分理解していただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

朝食を差し入れして下さい下さった方、沿道で声援を送って下さった方、道・県庁前に列席して下さい下さった方等等。

応援グッズの売り上げにもご協力頂き（合計153,400円）、また多くの会員さんから貴重な募金（218,230円）をお寄せ頂きました。（いずれも5月～11月までの集計）深い感謝を込めて、報告させていただきます。

## 人生は感動だ！

大澤 久子（札幌）

真夏（7/25）の宗谷岬を南下し日本縦断マラソン行脚、三つの季節を走り抜いた澤本さんご一行を11/29 雪の道庁でお迎えした時、私は感動で胸が詰まりました。この人たちは私たちの代弁者として命を賭けて走ってくれたのです。6,200km をただひたすら走り続けた澤本さんのご苦労はもとより、伊東事務局長、傷だらけになってバイクで伴走した佐藤さん、重たいカメラを幾つも提げてその実録を撮り続けた阿部さん。見事に全国47都道府県知事（副知事他）の署名入りの旗を持ち帰ってくれました。ご苦労様、ありがとうございます。この成功の陰に、全国のどれだけの人達のお力添えがあったでしょう。事前交渉、打ち合わせ、当日の面会、交通整理等々。一人ひとりには微力でも結集すれば日本を動かすことができるのです。29日はそういう実感と共に心から感動した日でした。

## 夢に向かって一步一步

安田 史子（札幌）

11月29日のラストラン。市役所のロビーに入ってきたマラソン隊の皆さんの姿を見て「無事に帰ってきた！本当に日本一周してきたんだ！」と安堵と感動で胸が熱くなりました。

「夢に向かって一步、一步」澤本さんがサインをする時にいつも書く言葉だと聞き、私たちの活動もこの言葉の通り、「一步、一步」焦ってはいけないのだと。夢や目標に向かってゆっくりでもいいから一步一步進んでいけばいいのだということを教えてもらったような気がします。

日本一周を成し遂げた男たちの顔は輝いて見えました。

1999.11.30 読売新聞



日本一周、6200kmを走破し、道庁前で支持者の歓迎を受ける沢本和雄さん（左から2人目）

## 熱いエネルギーをもらいました

渡辺 愛子（札幌）

その日、29日は寒い日でした。でもランナーの姿をみると感激！感動！元気で完走してきたその姿を見て泣けてしまいました。マラソン隊の皆さんから熱いエネルギーをもらった気持ちです。

## 完走おめでとうそしてありがとう

埋田 晴子（江別）

マラソンで日本一周という、すごいことを成し遂げられた4人の姿を、道庁でのゴールや「完走を祝う集い」で真近に見て、とても感激しました。

時間が流れるまま何となく生きている私には、一生懸命何かすることが欠けていたような気がします。2000年という区切りの年を迎えるにあたり、私にも何かできることを探していきたいと思います。本当にお疲れ様でした。

## 胸がじーんと熱くなりました

滝本はるよ（札幌）

道庁赤レンガ前でのゴール、最高でした！胸がじーんと熱くなりました。澤本さんがいつも言ってる「夢に一步一步」。私たちに身をもって教えて下さり、勇気と感動を与えてくれました。本当にありがとうございました。

## 完走を祝う集いに参加して

印田ひろ美（旭川）

11/29 澤本さんたち一行が、ようやく長い道程を経て、無事帰ってきました。7/28の旭川での歓迎セレモニー、8/1の札幌での全道集会以来、久しぶりにお会いした澤本さんはさほど疲れた様子もなく、元気そうに日焼けをしていました。札幌市役所、道庁赤レンガ前のゴールでは、約250名の人が集

まり、盛大な拍手で迎えました。祝賀パーティーはプリンスホテル別館国際パミール館で行われ、ここでは400名もの人が集まりました。悲願成就のため、ずっと大好きなお酒を断ってきた澤本さんは、1年8ヶ月ぶりにビール（ブーツ型のジョッキで）を飲んでいました。どんなにおいしかったことでしょう。

セレモニーの後半に、マラソン隊の各地での様子を紹介する、スライドが上映され、それがとても良かったです。旭川の恩田さんがユーモアをまじえたコメントで、盛り上げてくれました。旭川の「かがやき工房」がこのマラソンのホームページ作成を請け負い、私もそれに携わっていたので、また違う嬉しさがありました。ホームページの反響もかなりよかったと聞き、頑張った甲斐がありました。とてもよい思い出として残ります。お疲れ様、そしてありがとう。

## 沖縄応援ツアーに参加して

荒井ヨシ子（千歳）

旅行などできないと思っていた私ですが、「沖縄応援ツアー」の案内を見て、これなら行けるのではと参加させて頂きました。難病患者との交流会もありましたが、患者同士ということで、すぐに打ち解けることができました。とても楽しかったです。

バスで観光している途中、マラソン隊に追いついた時のことですが、澤本さんのあとを佐藤さんがバイクで伴走、そのかなり前を阿部さんがカメラをかまえ、シャッターを押す姿に出会ったのです。感激の一瞬でした。

沖縄に行けたのも、澤本さんはじめスタッフの皆様から元気をいただいたお陰と深く感謝いたしております。



### スローガン

- 全ての難病の原因の究明と治療方法の開発を一日も早く!!
- 全ての難病・長期慢性疾患の医療費を無料に!!
- 難病患者・障害者・高齢者が暮らせる年金の給付を!!
- 公的介護保障制度の確立を!!
- 総合的な難病対策の早期確立を!!
- 医療被害・薬害の根絶と国家賠償（補償）制度の確立を!!
- 全国都道府県に難病センターの建設を!! 東京に全国患者会館の建設を!!

以前から行ってみたいと思っていた沖縄。今回応援ツアーの案内（3泊4日）をもらって、丁度いい機会と思い行ってきました。

沖縄県庁舎前で、沖縄患者会の結成を願い、また難病対策の早期実現を知事に訴える式典にも参加しました。澤本さんが一步一步進んだ道を、今度は私たちが知恵と協力で、一つの大きな輪にしていかなければならないと思いました。

1999. 11. 30 毎日新聞

日本一周マラソンを終え、支援者らに囲まれてゴールする沢本和雄さん＝道庁前で29日午後5時10分、西村剛写す



## 息弾ませ道庁前 沢本さんゴール

難病患者を励ます日本一周激励マラソンを続けてきた札幌市手稲区のデザイナー、沢本和雄さん(53)が29日、同市中央区の道庁赤レンガ庁舎前にゴールした。7月25日に宗谷岬をスタートして以来、128日間で6200キロを走破。患者や支援者ら約200人が「完走ありがとう」の横断幕と熱い拍手で出迎える中、元気にテープを切った。

札幌はこの日、最高気温が氷点下1・7度の真冬日。沢本さんは「皆さんの声援が私をここまで運んでくれた。今はただ感謝の一言、雪に歓迎されました」と白い息を弾ませた。

沢本さんは北海道難病連のシンボルマークをデザインしたことなどをきっかけに激励マラソンに挑戦した。1日40〜70キロのペースで走り、各地で患者グループと交流。29日はフェリーで苫小牧入りし、札幌まで65キロのラストランを飾った。

【鈴木 稿】



10月中旬の沖縄はあまり熱くなく、過ごしやすい気候でした。

一日目。福島経由でいざ沖縄へ。雲が多く、青い海に浮かぶ珊瑚礁を空から見れなかったのは残念。ホテルにつくと南国ムードいっぱい、従業員の皆さんがアロハシャツ姿で私たちを迎えてくれました。

二日目。守礼門のあと首里城を観光。津島藩が来る以前は平和で、大陸との交流が深かったことが城内の展示物から知ることができました。

夕食は沖縄の難病患者の皆さんと一緒に、伝統舞踊（四つ竹、茶前等）を見ながら頂きました。ミミガー（豚の耳のあえもの）、ピーナツ豆腐、豚の角煮、豆腐をアルコール漬けにした珍味、もずく酢、沖縄名産の紅いも料理、どれもみんな美味しかったです。ちょっと不気味な豚の頭の皮や豚足もしっかり見てきました。



三日目。東南植物園では専用バスに乗って、造花のような花や植物を見たり、喉が乾けば、ヤシの実で喉を潤したり、砂糖黍をそのまま丸かじりしたりしました。また、琉球村ではハブとマンガースの決闘を見学しました。

沖縄は年間の降水量が少ないため、屋根の上に水タンクを置いて飲料用に使っているとのこと。水が豊富にある北海道では考えられないことです。

民家の他に大きい建物が無い静かな村に大きな米軍基地があり、始終爆音を上げて飛び交うのには本当に驚いてしまいました。

また万座毛から沈む夕日を感動しながら見たり、夕食後、2～3人連れだつて波打ちぎわで珊瑚を拾ったり、名残惜しい沖縄の夜を過ごしました。

翌日、ひめゆりの塔、玉泉洞を見学したあと空港に向かいました。こうして沖縄料理をたくさん食べ、沖縄民謡や踊りを見て、体力のあるかぎり観光して回った4日間は楽しく過ぎて行きました。また沖縄に行く機会があれば、石垣島などにも行ってみたいです。

-----

これを読んで私も行けばよかったと思った方がいらっしゃるかも。難病連が企画したこの旅行は、患者のペースに合わせた、無理のないスケジュールで、とても好評でした。



# 事務局からのお知らせ

☺新しく入会された方たちです。(1999.12.14現在)

中峰 由美子さん (S L E S. 32. 4. 9生 白老町)

元木 みどりさん (S L E S. 34. 11. 30生 札幌市清田区)

よろしく願いいたします。

☺ご寄付をいただきました。

中田 朱美様 平尾 陽子様

小山 道子様 松嶋 茂子様

合計 14,600円 (1999.10~12.14)

ありがとうございました。

☺札幌地区の新年会のお知らせ

札幌地区の新年会を1月29日(土)夜に行います。

詳しくは後日改めてご案内いたします。

各地区でも、忘年会や新年会を予定していると思いますが「地区だより」へ投稿をお待ちしています。

☺今回掲載予定の小池先生の医療講演会のお話は都合にて次号の掲載予定となりました。





## 署名・募金のお願い

JPC（日本患者・家族団体協議会）の「総合的難病対策の早期確立を要望する」ための国会請願署名および募金活動が始まっています。私たちが病気や障害をもっても、高齢になっても、ともに暮らせる社会の実現を目指してご協力をよろしくお願いします。

募金は、今回の国会請願活動に必要な諸経費（署名用紙など）やJPCとその加盟団体の諸活動を進めるための資金となります。併せてご協力をお願いします。



締 切

平成12年3月末

郵 送 先

友の会事務局まで

〒064-8506 札幌市中央区南4条西10丁目北海道難病センター内

送金方法

同封の郵便振込用紙にて

## あ・と・が・き



★今年もあとわずかになりました。皆さんはどんな一年を過ごされましたか？8月に行われた小池先生の講演をお届けできず、今回は日本一周マラソンの最終報告の内容となりました。申し分けありません。（次号掲載予定です）7月に出発した時はゴールはまだまだと思っていたのに、あっという間にその日が来てしまった感じです。ゴールでのマラソン隊の精悍な姿を見て、自分自身の今までのことや、これからのことを考えさせられたのではないのでしょうか。来年は2000年という記念の年、新しいことにチャレンジしてみるのもいいですね。これからは冬本番、皆さんお体を大切によい年をお迎え下さい。

（埋田）



★今年は私のこれまでの人生の中で、きわめて幸運な年でありました。私をとりまくたくさんの人々に、支えられ、助けられ、ただ、感謝あるのみです。1900年代から2000年という、千年に一度しかない歴史的節目に遭遇できるのも、やはり幸運ですね。ここまでなんとか生きてこられたのですから。マラソン隊が無事帰ってこられたのも、慎重な日程調整に加えて、幸運の女神に守られていたからだと思います。日本一周の本当の意味を検証し、今度は私たちがそれにどう応えていくか、それが新しい年の課題になるでしょう。

今年見た映画の中で最も感動したのは「レッドバイオリン」（カナダ）。本では「沈まぬ太陽」全5巻（山崎豊子著）です。ドラマ化された時のキャスティングなど考えて、主人公は役所広司がいいかなと私が言うと、友人は西田敏行と言うし、同じ本を読んでもこんなにイメージが違うことがおかしかったです。

相変わらず暗いニュースが続いていますが、それぞれ自分の目標を見失わず、努力を続けていけば、新しい年もきっとよい年になると信じています。寒さに向かう季節、風邪対策はしっかりやりましょう。（三森）

全国膠原病友の会北海道支部

<編集人>

編集責任者 埋田晴子

〒064-8508 札幌市中央区南4条西10丁目

北海道難病センター内 ☎(011)512-3233

<発行人>

北海道身体障害者団体定期刊行物協会

細川 久美子

〒069-0868 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

☎(011)736-1715

昭和48年1月13日第3種郵便物認可 HSK通巻338号 100円

いちばんぼし No.119 平成11年12月10日発行(毎月1回10日発行)